

Pichari ~ ピチャリ ~

七飯町歴史館だより
第123号

nanae historical
museum collection

ななえ古写真物語

VOL. 123

音楽堂と謎の祭

はためく万国旗
大正～昭和初期か
大沼公園広場



ななえ古写真物語が、100回を越えてから、なぜか、すでに紹介し終えた錯覚に陥っている古写真があり、自分の記憶の曖昧さに、がっくりとしてしまう。この写真もそういった一枚である。

10年ほど前に寄贈を受けて、当館の資料として保管している、紙マウントの大判写真である。中央に櫓のようなものが組まれ、その上へ突き出た柱から、3方向に万国旗が広がっており、何やら祭りのような事が催されている。そんな風景を切り取ったものだ。

場所は、背後に見える駒ヶ岳の姿と、右奥に一段高くなった平場があることから、大沼公園広場で間違いのないのだが、年代や何をしているところか調べてから掲載しようと、候補にあげながら、忘れていた写真である。

一段高くなった平場は「音楽堂」とよばれるもので、今もその名残りが残っている。大正3年に提出された本多静六博士による「大沼公園改良案」に建設計画が盛り込まれ、大正6年には、土台が出来上がっていたのだが、野外音楽堂としては使われなかったという。それを裏付けるかのように、この写真では、横幕で囲み、祭壇の様なものが置かれているのがうかがえる。

この写真で謎なのは、一体何をしているところなのか、である。万国旗が掲げられている様子を見ると、運動会のようにも思えるが、どうも、そうは見えない。

よく見ると、大人と子どもが入り混じり、大勢で同じ方向を見ていて、その先には、何艘かの屋形船が、今まさに出航した姿がある。そこで、ふと頭に浮かんだのが、大沼に浮かぶ島のひとつに、明治36年に建立された、相原周防守政胤という人物を祀る石碑。彼は、謀略に陥り、大沼で命を落としたとされる人物だが、石碑建立以降、観光振興の神として祀り、月に2回、関係者が船でお参りをしたという。しかし、毎月の行事であれば、ここまで、盛大に行われるか疑問が生じる。

次に浮かんだのは、大沼で亡くなった方の鎮魂のため、昔から8月に行われていた「灯籠流し」である。大正期には、公園広場で余興の盆踊りなども行われたというので、櫓があることは、なんとなく合点がゆくが、写真の服装を見る限り、コートを着ていたり、おおよそ真夏の服装とは思えず、すっきりとしない。

果たして、何をしている写真なのか、解明に至るには、まだまだ調査が必要のようだ。

4月の予定

1日

2月は町内外から、多くの小学校が見学に訪れました。この日は、北斗市立萩野小学校の3年生が昔の道具を調べに来館しました。茅葺民家の構造や、炭火カイロや火のしなどの道具が、現在は素材や動かすエネルギーがどう変化しているかを解説し、企画展示室内では、「あそび」を体験する子供たちの賑やかな声が響きました。後のお便りで、「学芸員」という職業に興味を持った子がいるということ聞き、博物館をより身近に感じていることを、嬉しく思いました。



7日

夜の博物館後期講座第3夜を行いました。今回は「土偶のはなし」と題しまして、全国各地で出土されている土偶の紹介をした後に、常設展示室にある町内出土の土偶に触れてもらい、皆さんそれぞれの土偶のイメージなどをお聞きしました。夜の博物館では、こういった資料に触れてもらう時間を大切にしています。普段は、ガラスケース越しでしか見られないモノを手に取り、観察するとまた新たな感じ方ができるのでは、ないでしょうか？



24日

2月のジュニア探検クラブは、「わかさぎ釣り」を行いました。例年人気があるこのプログラム、寒風にも負けず、氷上でただひたすらに、釣れるのをじっと待ちます。静かなじゅんさい沼に、子供たちの歓喜の音があちらこちらから響き、たくさん釣れたわかさぎは、から揚げにして頂きました。その後は、大沼の森林公園内で、散策をしたり、雪原で寝そべったり、走り回ったりと、存分に体を使って遊んだ子供たち。寒くても、たとえ釣れなくても、皆で並んで釣り上げたこの経験が、いい思い出になりますように。

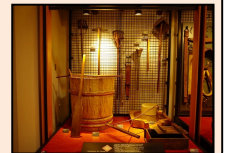


1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土 ジュニア探検クラブ
29	日 昭和の日
30	月 振替休日

4月の休館日はありません

お風呂？

常設展示室にある「味噌樽」、大きなその存在に見る人それぞれの印象があるようで、小学生は、ほぼ「これは、お風呂？」と聞きます。



編集後記 ~tawagoto~

啓蟄を過ぎたところから、ものすごい勢いで雪がとけ始めた。相変わらず、残る雪の量は多いけれど、その中から、うもれていた木々が顔を出していた。雪の重みで、枝が折れたり、曲がったりした痛々しい姿に、枯れてはいまいかと不安に思ったが、きっと逞しく生きているのだろう。気付けば、昼の時間が長くなり、館内では蜘蛛の姿を目にするようになった。ささやかながら、季節の移り変わりを感じている年度末を過ごしている。（やまだひさし）

~ピチャリ~
Pichari 第123号

平成30年3月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp